第壹號　No 1　The Woman's Weekly　November 5.1915　（大正四年十一月五日）

婦人週報

購入　昭和　年　月　代價金　円　賣主

主幹　小橋三四子　編輯主任　松本雲舟　（大正四年十一月四日第三種郵便物認可）　（每金曜日發行）
發行所　東京市牛込區市谷田町二丁目十七番地
發行兼編輯人　小橋三四子　印刷人　小橋三四子
印刷所　四谷區尾張町五番地　万月堂印刷所

婦人週報第壹巻第壹號

我は雇兵に非ず

小橋三四子

△烽火は既に揚る

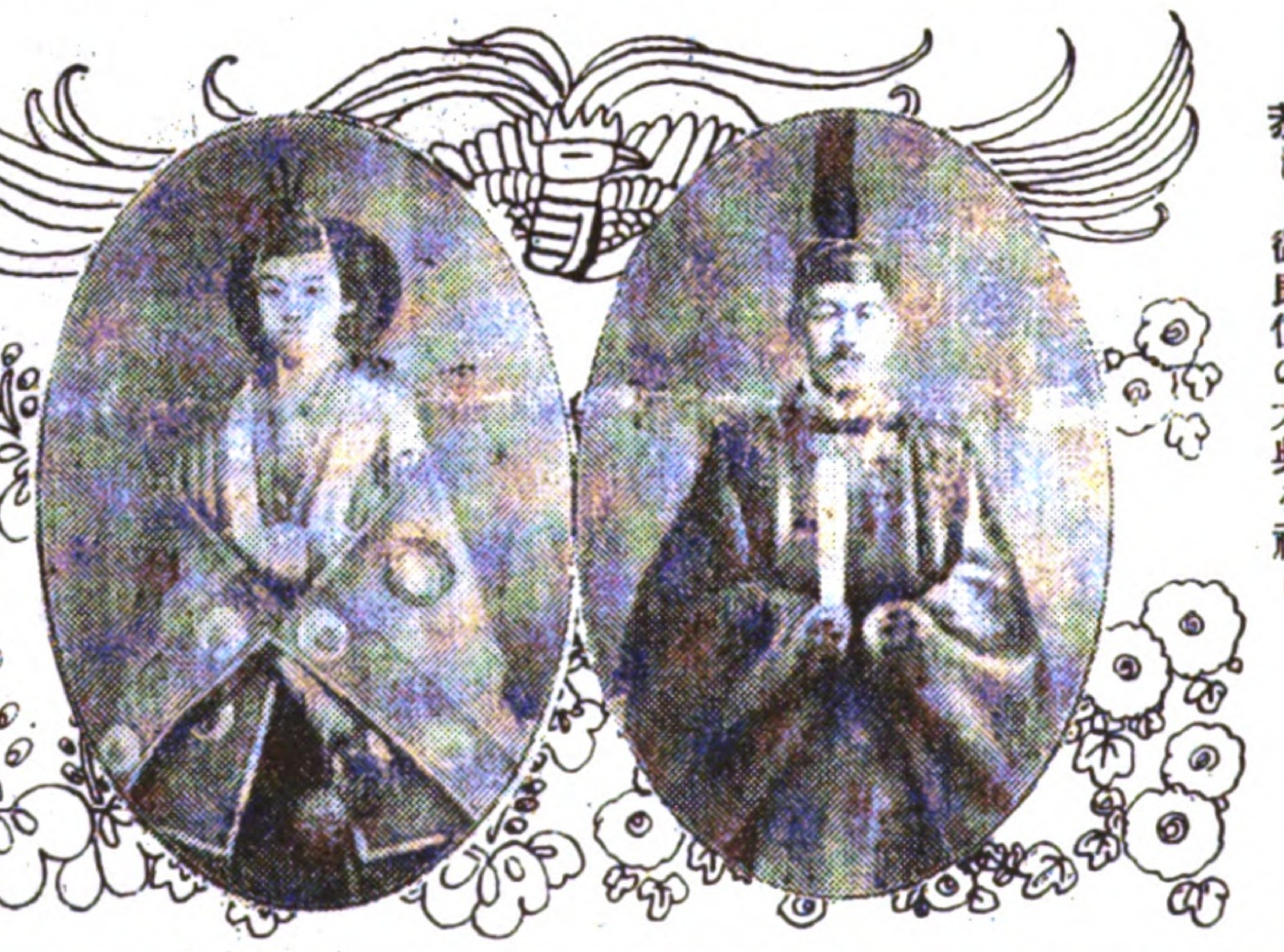
戰ひに臨んで愛國の念に燃る勇士は、たとへ我が身を肉彈として投ずるも、尙ほ後を顧みないでせうが、雇兵は同じく武勇を裝て居つても、不利と見れば忽ちに逃れ去るでありませう。久しく溷沌の中にあつた我が婦人界は、今や新しき時代を實現せんが爲めに、諸所に烽火は揚られつゝあります。この戰ひに參加して、いかに苦鬪を續けやうとも、命を棄て、骨惜まぬ者は、雇兵たる他人の能くする所ではなく、婦人自身の外に求むる事は出來ませぬ。本紙は我が同性の爲に命を捐て惜まぬ勇士であります。

△血と肉とにて購ふ

それ故に婦人の身邊に起るさまざまの問題をも、單に好奇心を以て研究するのでもなく、趣味に訴へて遊戯するのでもなく營利の爲に取扱ふのでは猶更ありませぬ我が血と肉とを賭して購はんとする最も眞劍な態度を持つもので、その尊き犧牲の上に、やがて同性の郁乎として住よき天地の開かれん事を希ふものであります。行く途には定めし嵐も波もありませうが、熱誠に燃る人の心には、疑ひや恐れを抱く餘地もありませぬ。只遙かに希望の光りは北斗星の如く前途を導くを見るのみであります。

△紙上に流るゝ生命

市井の人も書物の堆く積まれてあるのを見て『寧ろ襦袢を縫はん乎』と申ましたが、日に月に出版物の數を増す今日の社會は所謂書物製造者の手に成つた賣らんが爲の書物や雑誌の市に充滿して居るのを見て、世人は『寧ろ雑巾を縫へ』と申すかも知れませぬ。しかも尙我が出版界に一つの婦人週報を加へんとするものは止むに止まれぬ使命を感ずるに由るものであつて、同時に活字を通して流るゝ生命の、世人に掬まれんことをと望んで止まぬのであります。



恭しく御即位の大典を祝し
御代の萬歲を祈り奉る

週評

◉藝者の容認問題　も中々八ケ間敷くなつて來ました。斯る問題が眞面目に論議されて、世人の良心を覺醒することは、大正の新時代を作るに最も適當な事と想はれます。時代製造者として矢島老女史の健在を祈らねばなりません。

◉女子不可入　教育調査會では、女子の大學入學權の案を削除しました。『女子の虛榮心を煽る怖れがあるため』とは、薄弱極まる理由です。既に女子大學校が現存する以上、もつと深く女子教育に就いて研究して貰ひたい者です。

◉少女の飛行機犧牲　東北の大演習に於て、一人の少女が飛行機の犧牲になつたのは慘鼻の極でした。併し少女の無垢な血の洗禮をうけたことは、日本の飛行界の進歩に貢獻する處甚だ大と想はれます。畏くも　陛下から御弔慰金を賜はつたことは、此少女の靈を慰めるに足りませう。

◉岩野氏の離別　この問題も遂に法律沙汰になりました。日本の民法には夫は妻の同居を强制する權利を與へられてゐますが、妻にはさういふ權利を與へられてゐません。其故多分清子さんの敗訴になるでせうが、凡ての事情を傍に置いて、別に虐げられた弱い女に同情し、この片手落ちの法律を改正するやう叫ばねばなりませぬ。

◉女優澄子の服罪　姑殺しの大罪を犯せる女優中根澄子は八年の刑期に服することになりましたが、其心狀を憐まずにはゐられません。それほどの惡心なくて斯る大罪を犯すに至つたことはヒステリックな婦人を戒むるに足りませう、彼女の獄中生活が其心を靜めて、凡ての虛飾から脫した復活せる女たらしめたなら幸です。

本號目次

我は雇兵に非ず　小橋三四子
週評
婦人の大典記念事業
時事　宮廷録事、會の消息、女學校だより
發刊を祝す　文部大臣　高田早苗
婦人は何故進歩せぬか　廣岡淺子
無視された女の人格　森村市左衛門
新時代に處する婦人の資格　宮田脩、鳩山春子、成瀨仁藏、安井哲子、矢島楫子、山脇房子、嘉悦孝子、棚橋絢子、吉岡彌生子、櫻井ちか子
一人一評＝日向きむ子
婦人自活の途（裁縫の仕事）
文豪國木田獨歩の先妻と其の娘
今後の岩野清子
年上の女との結婚が殖る
文展の閨秀作家　[illegible]吉
束髪の將來（漫畫）　[illegible]村人
オハナシ＝生命の水
子供の智慧
小說　奴隸　松本雲舟
芝居の女（一つ家のあるじ）　大村嘉代子
[illegible]伯の苦心
養生法の自然主義　[illegible]
初冬と子供
五百圓內外の婚禮衣裳見積表　菅野田鶴子
實益ある冬の平常着
わきが療法　帝大講師醫學士　片山國幸
御大典當日の獻立
身の上相談（祖母と三人の子供）
家庭園藝叢談　千葉暁香

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

婦人の大典記念事業

社會的婦人の運動

來る十一月十日を中心として御舉行相成るべき御即位の大典を奉祝せんと我が婦人界に於ても各種の記念事業が企てられた中に最も社會の注目を惹きましたのは婦人矯風會の藝妓排斥運動、花の日會旗の日會の三つです。

△**藝妓問題** は婦人矯風會が「最も神聖なるべき御大典に際し靈肉ともにけがれたる藝妓を公會の席及公衆の中へ出さしめざる事を叫び出してから、識者の之に應じて起つもの多く、太正會、廓清會等亦猛然蹶起して辯論文章を以て社會に訴へました結果、非常な反響を得、御大禮一切の饗宴に彼等の影を認めざるべき事勿論、各府縣知事の司會する奉祝會宴會には藝妓を侍らしめざる事に決定いたしたのを初め、各地の公會席上には、藝妓の出席を拒絕するやうになりました。それは偏に婦人矯風會等の叫んだ輿論の爲めでありますから今後とも同會員諸姉の健闘を望みます。

△**花の日會** は都下貴婦人令嬢及諸女學校生徒達が作られた紅白の造花約二百万個を、十一月九日十日兩日、及十二月九日、市內所定の場所に於て、一個二錢にて賣捌き、以て御大典を美しき花をもて飾ると共に、其賣上純益金を擧げて慈善事業に寄附し、皇恩を下萬民に傳へんとするのでありまして、世間兎角の批難があるにも拘らず同會員が一意專心花を作り花を賣つて貧しき哀れむべき同胞を救はんとする誠意は、誠に感ずべき處であります。此上は成るべく世間の疑ひを受けざる樣、會計等は一切公表いたされたならば同會の將來は益々大いなりと云ふべきです。因みに十一月九日は朝七時から

江戸川終點、三越前、神田昌平橋、日比谷公園、大學赤門前、小石川春日町、白木屋前、赤坂見附、今川橋、松屋前、村井銀行前、雷門、芝園橋、八つ山金杉橋、駿河臺上、上野廣小路、銀座尾張町、牛込神樂坂上、

の十六箇所に於て花を賣られます

△**旗の日會** は家庭製作品奬勵會が其基金を得ると同時に其益金の一部を各地の公共事業に提供する趣意の下に起つた婦人の事業です。十一月六日即ち天皇陛下京都行幸の日、並に同廿八日還幸の日、全國各地で開催するのですが、當日東京では瓜生大將夫人初め數多の貴婦人が次の場所に於て小旗を賣られます。

市內各停車場、日比谷、九段下、尾張町三越前、白木屋前、虎の門、赤坂見附、上野、雷門、新橋、八ツ山、須田町、其の他市內目拔きの場所四十餘ヶ所

宮廷錄事

△**皇后陛下** には十月廿一日青山御所に遷御あらせられましたが、來る十一月下旬若くは十二月初旬御產殿に於て御慶事あらせらるべしと拜承いたします。

△**大典參列の妃殿下** 閑院宮妃、伏見若宮妃、竹田宮妃、北白川宮妃、朝香宮妃、梨本宮妃の七妃殿下は御參列と御決定。他の六殿下には御服喪其他の御理由に依り御遠慮申す由。

時事

◎**女子の入學削除**

十月二十二日永田町文相官邸に開かれた教育調査會大學令案討議第四回特別委員會に於て同案の修正された中最も注目すべきものは原案第九項「大學に入學することを得る者は中學校若くは修業年限五箇年の高等女學校を卒業したる者又は文部大臣に於て之と同等以上の學力を有するものと指定したるものたること」とあるを第十項とし同項中「**若くは修業年限五箇年の高等女學校を卒業したる者**」の一句を削除いたし、女子の大學入學を認めざるに至つた一事です。其修正の理由は大學の男女混合教育は尙十分研究の餘地あれば當分保留すべしと云ふにあるのですが、亦委員間には女子大學とか女子に學位を與ふるは虛榮心を一層挑發するものだと云ふ意見を有つてゐる者もある由です。之に對し成瀨仁藏氏は「初等教育は女子を阿婆擺とするが女子の高等教育乃至大學教育は其阿婆擺を取り除くものである事を知らぬ人々が多い」と云ひ、吉岡彌生女史は「高等教育を受ける女子に虛榮心はない、女子の大學入學を削除した委員達は

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

社會の進運を解せぬものと申してもよい」と某紙記者に語つてゐます。

◉大典參列の貴婦人

總數五十餘名にて首相夫人大隈綾子、鍋島侯夫人榮子、戸田伯夫人極子、板垣伯夫人絹子岡陸相夫人もと子、後藤男夫人和子、長崎省吾夫人妙子、山脇房子、添田鐵道院總裁夫人秀子、井上元帥夫人光子、徳川公夫人實枝子、長岡中將夫人芳子、其他ですと。

◉天杯拜受の高齢者

御大典に際して名譽の天杯を下賜されますが東京市内の高齢者は八十歲以上の男千百七十三人、女二千七百五十六人 九十歲以上の男四十人、女百四十四人、百歲以上の男一人、女六人、合計四千百二十人です。尙百歲以上の人々は次の通りです。

△牛込區赤城下町三十二 友野吉藏（百八歲）
△本郷區元富士町二 井上米（百七歲）
△淺草區花川戸町六七 浦さみ（百六歲）
△小石川區西丸町一九 桃田喜代（百四歲）
△本郷區駒込動坂町 夏目千代（百四歲）
△本郷區春木町二の一の下 佐藤たか（百二歲）
△赤坂區表町二ノ一六 直井ひさ（百一歲）

◉エヂス孃の死刑

英佛兵士の爲めに計りて獨乙軍の爲めに死刑の宣告を受けたる前白耳義國女子師範學校長エヂス、ウヴェル孃は十月二十二日遂に死刑を執行されましたが之れに對し英國民の憤慨は一方ならぬ由です

◉飛行機で死んだ少女

十月二十二日東北大演習參加飛行機二十七號破損の際腕を折られ間もなく死亡した鎌田周助三女てつの事天聽に達したる處畏くも陛下には深く之を憐ませ給ひ翌廿三日同家族に對し若干の慰藉料を御下賜相成りました。

●御眞影下賜 兩陛下の御眞影は十月廿六日東京市役所に於て市内十八高等小學校に下賜されました

●參列貴婦人の髪結 大阪東區二丁目山本久英(三八)女史と決定、女史は十一月一日髪結化粧師百名梳手百名を引連れ京都に趣きました

會の消息

▲白國救濟演藝會 十月卅日帝國ホテルで開かれました

▲リデル孃後援會音樂會 十月廿三日上野音樂學校に於て盛大に開催されました。

▲婦人共立育兒會總會 十月廿三日神田大手町私立衞生會々堂にて第十九回總會を開催出席婦人百五十名

▲將校婦人會總會 十月廿日築地水交社に於て第五回總會を開く、總裁東伏見宮妃令旨を賜ふ、閑院宮妃、梨本宮妃兩殿下を初め奉り元帥大將夫人以下多數出席されました

▲女子青年會館新築披露 神田北神保町十四に新築された同館は十月十九二十、二十三の三日間に渡り新築披露の會を催しました。

▲愛國婦人會獻上品 蒔繪の文臺と硯箱と決定、辻村松華氏目下謹製中です。

女學校だより

▲東京府立第一高女 御大典記念事業として職員、卒業生、在校生により家庭改良會を組織せり。家事參考館、又は研究館と稱するものを起る家庭に必要なる器具又は模範的新式器具を集めて會員の參考に供し精神的方面としては一種の倫理的運動を起して皇室に對する尊敬の念を一層深く養ふべく尙は一般家庭に敬神をすゝめ先祖祭を年二三回にし以つて祖先崇拜の美風を涵養せしめんとするなり、尙ほ來る御大典當日を期して總會を開くべしと。

▲京都府立第一高女 大典記念として御眞影奉安所を新築します。これは卒業生の團体なる鴨沂會の寄附に係り火には三十時間の包圍に堪ふるといふ。建築費約九百圓。一兩日中に竣功の筈。又大典當時校内を飾る目的にて職員生徒各一鉢宛を栽培し校内に配置せらるべく手配中なり。（同校通信）

▲跡見女學校 御大典を期し從來の華美なる衣服を廢し眞岡木綿濃色紫紺の綿服に改め單夜衣と袷衣を作り冬期も袷衣にて成可く間に合す積りなり、尙一二年生は元祿袖とし其以上は一尺八寸以内の長袖を用ふるも差しつかへなし。（同校通信）

▲成女高等女學校 十月卅一日創立十五週年記念式を擧行せり。同日は記念祝賀會を催し且つ同校卒業生の新校舍建築費募集の音樂會及び在校生のバザー文藝會等にて盛會を極めたり。

▲女子美術記念式 十月卅日午前九時より全校に創立十五週年記念式を擧行したり。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

發刊を祝す

文部大臣　高田早苗

わが國婦人思想の混亂最も甚しき今日、着實なる地歩に立ちて婦人界の指導者たらんとする、婦人週報の健全なる發展を望む。

何故婦人は進歩せぬか

廣岡淺子

昔ながらの女

何れの國に於ても、婦人の進歩は男子に一歩遲れて居るやうでありますが、殊に日本に於ては甚だしく、男は洋服を着け靴を穿いて居るのが普通であるのに、女は昔ながらの着物や下駄を穿いて居るといふ有樣です。習慣を離れて見たら誠に異樣な感じが致しませう。さらば日本婦人の進まぬ原因は何處にありませうか、極めて消極的な貝原益軒の女大學で仕込まれた故だの、佛教儒教思想での女は度し難いといふ特別な罪業觀や、三從の教等が禍ひして居るのであるなど、いろ〳〵の說を申しますが、これ等は要するに枝葉の問題で、最も根本を探れば、思想生活の源泉が涸れて居るからであらうと思はれます。云ひ換れば、女の一生は他人に據るといふので、人相手の教育のみされて、未だ絕對の神に到達して居らぬので、どうしても智識品性が淺薄になるのであると思はれます

人格愛慕の誠心

かのメーテルリンクと云ふ文豪によつて書かれた劇で、我日本でも上場された事があるので、一般社會に知られて居るマグダラのマリヤといふ倫落した婦人が、空前絕後のキリストに逢て忽ちその神々しさに打たれ、御足に接吻したといふ話がありますが、その時のマリヤは果して如何なる心であつたか、愛慕の念と共に未だ不純の心も混つて居つたに違ひありませぬが、キリストはこの女の愛を次第に清めて、終に神を愛する純潔者の如きものとなし給ひ、終り迄主を愛する最も忠信なる弟子の一人となされたのであります。私共が神を知り、深き敬虔の念を以て愛慕する時は、自人格も高まり智識も限りなく開拓されて、良妻賢母も、貞女も烈婦も世に出づるやうにならうと考へます。私は今後の婦人がこの根本を目がけて進んで行かれることを希望して止みませぬ。

無視された女の人格

森村市左衛門

男にも責任あり

今日の日本人はガラスを塡めたペンキ塗りの家に住んで居るが、その中に居る人の頭は昔と少しも變らない、吳服店に並べてあるお召の一反でも、昔のまゝで、只菊の模樣が牡丹になり、白が黑になつたまゝで、織方などには少しの進歩もありません。それが爲め一反で十五六圓もしますが、もうこれを織る機械が發明されたら、七八圓であがりませう。商工業でも智識界にでも、かやうな種類の事が多いので、從つて日本婦人の進歩しないのも、婦人ばかりが惡いとは申されません。過般文部省の教育調査會に於て、堂々たる新進の學者、政治家などが女子には高等教育は不必要であると申され、成瀨女子大學校長は大にこれ等の人々を說くに努められたと云ふ事であります。これ等によつても、日本の多くの男子は、只女子を自分の家丈けのものとして見るので更に人間として如何にあるべきかといふ深い考へに觸て居らぬ事が解るのであります。

根底となる信念

この日本人のとかく何事にも考へが淺いのは、何故でありませうか、氣候が然らしむるのであらうか、島國といふ安逸の境遇が然らしめたのでありませうか。何れも多少與かつて力ありませうが最も重な原因は、人生を眞面目に解釋する宗教思想の缺乏であると考へられます。もしこの宗教思想が人心の奧深く植付けられたら、益々生存競爭の激しくなる時勢に處して、非常に根強い力を以て、奮闘し、その間を切り拔けて行くことが出來ませう。

— 10 —
Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

新時代に處する婦人の資格

大正年代は御即位の大典擧行に依つて全く新しい時代に入りました。明治といふ色彩も自然に消えて、事々物々全く新しい形躰を備へるに至りましたので、この新時代に處する婦人の資格に就いて諸名家の意見を茲に集めて見ました。

聰明な頭腦

宮田修

今後の婦人は聰明にならねばならぬ。今迄にも随分成功したり男を凌いだ婦人は有りましたが、それ等の多くは優しい姿とか美しい容色から贏ち得たものでありました。然し人智の發達しかく忙しい世の中では其麼事では却々覺束ない。それでは婦人が人格者としての勝利でも成功でもないのです。故に新時代の婦人はもつとしつかりした聰明な頭を持つて、いろ〳〵の事を解決してゆかねばなりませぬ。かくして初めて失敗もなく健かな歩みを以て世の中に立つ事が出來、亦本當の成功も勝利も得らるゝのであります。

奮闘的精神

鳩山春子

西洋でもほんの一世紀前までは婦人は「麻の衣には綿を吹いて着よ」と申た程に、姿のしなやかな從つて柔順なのを、唯一の婦徳と致して居りましたが、今日では先づ生きて行かねばならぬと云ふのでどんな場合にも潰しの利く、有用な、且つ積極的な人間になる事を務めて居ります。日本もこれ迄は女と云へば人に頼ることが本來で姿、形も綺麗なのを、所謂女らしいと尊んで居りましたが、次第に生存競争の劇しくなつて來た今日は、得意の地位にある間はそれでも人がお世辭を云つてくれませうが、いざとなると皆逃られて了ひます。今後の婦人は先づ有用な人間になり、如何なる場合にも人に依頼して乞食のやうな生活を送らずに己が實力を以て生きて行かれると共に、奮闘的精神を以て、死ぬる迄進んで止まぬ者とならねばなりません。從つて婦人の容姿も、筋肉の充分に發達し、潑溂たる精力を蓄へて居るのを賞美する時代にならうと思ひます。

三つの資格

成瀬仁藏

婦人の資格として今後と雖も、良妻賢母主義の大切なる事は、過去三千年來敢て異る處はありませぬが、只だ其の内容には常に變遷があり、殊に將來は次の三つが主なる資格とならなければならぬと思はれます。第一は自重の念を旺んならしめて、婦人は他の便宜や道具に存在するのでなくて、一個の人間として國民として生存すると云ふ自覺を持たしむる事、第二には國家に直接間接に貢献する事これは單に子女を國家有用の材として世に貢献するといふ斗りでなく、その才能次第で自身國家樞要の位置に上るもよし、智識の蘊奥を究めて學術界に捧げるもよいでありませう。第三には確乎たる一つの信念を以つて、精身界の廓清に務めること等が今後殊に大切であらうと思はれます。

決行する力

矢島楫子

婦人はこうありたい、かやうにあるべきものといふ資格に就いては既に世に多く陳列されてありますから、今後の婦人は之れを決斷して斷行する力が欲しいと思ひます。それには物の當否を知る深い智慧を常に養つて置きたいものであります。

責任の自覺

安井哲子

今後の日本は一層世界と密接な關係を結んで、各國の出來事が恰も一身の如くに、敏捷に影響し合ふ時勢でありますから、婦人も國家の位置を了解して更に世界的國民たる責任を自覺しなければなりません。それには常に世界に於ける文明の進歩を知り、彼我婦人の特色をも對照して、反省奮起する元氣を養成したいものです。次には戰後の日本として、國家の富力を大

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

いに考へ、經濟上どれほど婦人の覺悟の大切なるかを知り質素勤勞を喜び、常に心身の健全を保ち、盡きぬ精力を保つやうに努めたいものです。最後に最も力を注ぎたいと思ふことは、自己のため、殊に未來の國民たるべき子女教養のために、一層精神修養を力むることであります。

人格を認めさせよ

山脇房子

日本の婦人は個人主義でないなど、云はれますが、只だ〳〵自分さへ不自由なければ他人の事、世の中の事は知らぬ顔で居るのが今の多くの婦人ではありますまいか、假令ば女子が大學へ入學出來ぬと云はれても、誰一人として其無道を叫ぶものもなく、尚更婦人が團結して自らの正當な權利を得んと運動を起すものもありません。新時代の日本婦人は自ら修養して内容ある人間たるは勿論、婦人の團結的努力を作つて、女子の權利を主張し擁護せなければなりませぬ。之れが舊來の婦人の資格以外、新に加へなければならぬ新時代の要求であると思ひやす。

働きある女たれ

嘉悦孝子

世の中が進んで來た今日、たゞ貞淑である以外に、働きのある者となる事を、新時代の婦人の資格に入れなければならぬと思ひます。女は男に隨つて行くべきものではありますけれど、或場合に於ては全く獨立して生活せねばならぬ事にも出會いたします、かゝる定めなき世に處するには婦人に於ても一つの働きをもつ事が肝要であり、亦何事にもよく適應して働けるやうに修養する事が必要であります。女だから働けぬと云ふ引込思案を打破して、女も役にたつものだと云ふ自信を抱いて進まねばなりませぬ。

内容と活せ

棚橋絢子

今年は即位式も御座いまして、新しい氣分も添へられましたが、この新しい時代に處する婦人は更にどういふ資格を持たなければならないかといふ事に就いては、別段に取りたてゝ云ふ程の事は持ちません。よく近頃は、何でも彼でもやたらに新しいと申ますか、是れと云つて、新しくなつた處は、無いやうです。男子は、何處まで行つても男子で、女子は、何時までたつても女子てす、して見れば女子の資格も昔からの教育方針として居る處のものでいゝでせう、これは今迄に幾度となく精選に精選を重ねた完全のものですから、新時代の婦人は、從來の資格の土台に、もつと之を充實させ、更に之れを活かして働かせるといふ事が、最も必要の事と思ひます。

實力を養へ

吉岡彌生子

日本婦人は實力がない、何の爲めに生存して居るか解らぬが多いのです。これを覺醒させやうとして教育すれば、教育は女を生意氣にするなど、世の人々から攻撃される。實際今まで少々學問した婦人は、鷄群の一鶴とでも思はれるのか、生半可の智識を誇りたがつたものです。今後の婦人はそんな事ではなりませぬ、しつかりした男子と同等の實力を得るまで努力し、夫あるものは夫の智識と同じ位の修養をいたし學校の教員ならば首席教師にでもなつてから初めて一人前になつたと思ふ位にならねばいけませぬ。たゞ女としては可成り出來る位の讚辭に滿足をしてゐるやうでは新時代の婦人としてもの足らない。また男子の方でも徒に婦人を壓迫するやうな事なく、共々向上の道を辿るやうにいたしたいものです。

勇氣と決斷力

櫻井ちか子

新時代の婦人には從來の諸資格に加へて勇氣と決斷力とを持つてほしいと思ひます。此の間子供を連れて郊外を散歩しました際、どうしても一間ばかりの溝にかゝつてゐる細い板橋を渡らなければならなかつた、すると五才になる男の子は面白がつてさつさと渡りましたが、七つになる女の子は「恐い〳〵」と泣くのでした。ぐずぐずしてゐると、後から電車が來る鐵道線路でありましたから、其の子を叱るやうに勵ましてやうやく渡らせますと、もとより高の知れた溝で何の恐ろしい事もなかつたのです婦人が世の中に立つて行く丁度この女の子の如く何うしても越ねばならぬ難關に出合つた場合兎角勇氣と決斷力がない爲に逡巡致す事が多いやうに思はれます。

（一八一）評

日向きむ子

▲日向きむ子女史に御目にかゝると二ツ、第一回は八年前で、きむ子女史が田端御殿の女主人公として榮華の極みを誇り、花の如き生活を營んで居られる時であつた、第二回は最近悲しき運命の下に尾羽打枯らした生活を試みられる時である。才氣煥發の婦人として女史を敬愛せる自分は、二度とも御目にかゝつて心地善い感じをしたが、今度簡易な生活に於て女史の面目が一層赤裸々になつたとを嬉しく想つた。

▲宏莊な田端御殿から小石川原町の粗末な二階建の家に移られた女史、世間的にはいかにも氣の毒な感じがしますが、女史自身は内容な空虚な虚僞の生活から眞面目な簡易生活に還つたとを心から喜んで居られる。虚僞な生活、それがいかに忌はしくとも、因襲の久しき惰性となりて中々に棄てられるものではない、世間體といふとでも自動的に無視してかゝるとは六ケ敷い。實の所夫輝武氏の災禍は、女史があらゆる因襲を打破するの因になつたのである、女史も輝武氏も宗教上の根底の深い精神を持つてゐられるので、禍を轉じて福となすの術を會得して居られるので『輝武も私も今度の事をどんなに喜んで居りますか』との女史の告白は傾聽に値ひする。

▲世間では女史が女優になるだらうの、踊の師匠になるだらうのと種々な事をいふ。榮耀を誇つた女史の極く上つ面を觀察すれば、さういふ風評話も據り所がなくはない。けれど女史自身は今度初めて赤裸々な人生に觸れて、眞劍な戰をなさうとして居られる。生活の改造!! 無一物になつて新らしき人生の旅路をやり直さうとする斷乎たる覺悟、これが女史最近の心的狀態である。女史の上に幸あれ。（くも）

婦人自活の路

裁縫の仕事

▲腕次第で獨立できる

婦人が裁縫に依つて自活するには相等の技術がなければならぬ。高等女學校を卒業した程の婦人ならば更に二三年間高等技藝學校師範科に學べば中等教員として東京では二十圓から二十五圓、地方では三十圓から三十五圓の月給取りになれます。然し腕一本で裁縫塾を開くとか、賃仕事をして獨立しやうとすれば、尚一二年、多くの品物を實際手にかけて見なければ不安心です。學問は無くとも裁縫塾のやうな所でみつしり技術に心を打込んだ者だと滿三年立ば立派な腕前になりませう。

▲十五圓から廿圓の收入

大呉服店や鐵道院の被服工場などに雇はれても自活は爲し得ますが雇はれる迄に手間がとれます一戸構へるなり間借をしてなり賃仕事をいたすとすれば先づ第一に二三軒呉服店や、大家に關係をつける事が必要です。それには自分で呉服店なり大家へ出向いて眞面目にお賴みする、先方で信用すれば漸次仕事を廻してくれます。何か傳手をもとめて賴み込めば尚ほよろしい。一と月も辛抱してゐればだん／＼近所の人々に知られて來ますから仕事を堅くして信用のつくのを待てば二三ヶ月内外うまくゆくと貳十圓以上の收入を得られます。

▲覺悟と苦心を要す

からして賃仕事をする傍ら弟子の數人も世話すると其方の收入も出來、益々信用がついて來て仕事が多くなれば半分か三分の一の歩合を手傳はせる事も出來ますから發展次第で三四十圓の收入を見る事もさう難くはありません。もとより此發展を見るまでには餘程の覺悟と苦心を要するのですけれど、其人の覺悟と腕次第では婦人が立派に獨立自活し得る道として裁縫をお勸めするに躊躇いたしませぬ。

噂

▲熊本回春病院長リデル孃は先月上京して官民一般の同情を增しましたが、某紙の寄附金報告中に一番生と云ふ名で金三圓を寄附した人がありました其生とは誰かと聞いて見ると驚いてから慈善事業には大反對の意見を持つゐられる稲田鐵三博士でありました。

▲『私は造花屋になつても食べてゆかれます』と嘉悅孝子女史は記者と語る間にも花の日會の花作りに熱心してゐられました。一日外、佐藤男爵家のお使が來た時嘉悅女史と生徒十名とで三十分間に紅白三百五十個の菊花を作り上げたので、お使の人も其熟練した造花の腕前に驚歎してゐられたとか。

▲先日五人の男が某所に會合しました。獨身のO君は細君を貰ふなら別嬪がよい顏さへよければ教育などはいらないと氣焔を吐くと旣に妻帯してゐる四人は同時に吹き出しました、A君が言ふにはO君の口からそんな事を聽うとは思ひがけなかつた。女の顏などは直ぐ凋落するものだ。H君が言ふには細君の顏など見るのは二三ヶ月の間だ、M君が言ふには、細君の顏などやに下つて見てゐられるものか Z君が言ふには骨董品と實用品とを間違へては困る。T君が言ふには心には變化があるが顏は單調なものだ、四人の妻帯者の經驗上の包圍攻擊に流石のO君もぐうの根が出ませんでしたと。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

文豪國木田獨歩の 先妻と其の娘

同情を以て語る木下尚江氏

娘盛りの浦子孃

明治文壇の偉彩故國木田獨歩氏が熱烈な戀の對手であつた當時の佐々木信子—今は府下原宿に後の夫武井某氏の世話女房として淋しき年月を送つてゐられる武井信子。其信子さんが獨歩氏と同棲數ケ月の間に氏の種を宿し、生落した娘があつた。其名を浦子と呼ばれ、今や十九の娘盛り、熊本なる伯父の家から東京の母信子の許へ歸つて來たのは去年の暮、間もなく家事見習ひとして懇意なる木下尚江氏の家に預けられました。

獨歩君に似て？

府下三河島町屋に木下氏を訪れると、古びた田舍家、秋の入日が差込んだお座敷に、端然靜座して讀書に餘念なかつた尚江氏は、記者に座布團を勸めてから腕を組まれた。氏は記者の來意を聞いて意外らしい顏をしたが世の中を嘲笑ふやうな笑を洩らして『浦子さんは來てゐたが九月末にお母さんの方へ歸りましたよ』と多くを語らない。尚記者の問ひに對して『浦子さんは今迄學校生活をしてゐたので家庭の仕事に慣てゐないから一つ私の所へ頼みたいと云ふので來たまでで外に意味はない。もう大分馴れたから歸つたのです。どんな娘ですかつて？。普通の娘ですよ。獨歩君に似たとこ？。さうね、惡いところは似てるかも知れないハ……』と笑ふ。

信子はいゝ人

『一体世の中の人が信子と云ふ婦人を獨歩君の作物からばかり見てゐるから、隨分ひどい評をするのだが、あんなものぢやないのだ。故人を惡く云ふのぢやないが、獨歩と云ふ人には隨分缺點があり我儘者でしたよ。そりや今の治子さんが一番よく知つてゐるだらう。信子さんが逃げ出したのも無理はないと、獨歩君をよく知るものは思つてゐるさ。……兎に角獨歩君は筆の人だ、勝手な事を書けたさ『鎌倉夫人』などは最もひどいもんだ。あれでよく信子が默つてゐたと思はれる位さ。何と云つても無告の女、信子は氣の毒なものさ、信子つて人は眞面目な善い人なんです』尚江氏はこう語つて暫時沈默されました。

同情すべき信子

信子は獨歩氏と離れてから到る所で新聞記者の訪問を受けたり、獨歩の作品を引合に出されて彼女の古傷を衝突かれ、何處に住むも絶えざる不安と恐怖とがつきまとつてゐた『實の娘さへも世間の噂やら何かゝら母を疑つてゐる位だからね』と木下氏は悲痛な面持でつけ加へた。事實はどうであつたにもせよ、慥に信子には同情すべき所がある——と思ひ乍ら、記者は辭し歸らうとすると『この大根はうまいから、また喰ひに來てくれ給へ』と尚江氏は言はれました（晃）

今後の岩野清子

創作に從事せん

から風の強い晩秋の朝、巣鴨宮中二五一七の寓居に、問題の岩野清子さんをお訪ねしました。別居當時の興奮も薄らいで靜かに落着いた態度で記者の問に答へられる『裁判の方は新聞紙上に現はれた以外何もありませんです、次回公判は十一月の八日ですが、何うも長くなるので困ります』と法律上の爭ひに疲れたと云ふ風『然し最初から、同居を強請したのは自分が實際泡鳴氏と同居したいからではなかつたので、妻として夫と同居し得る權利があると云ふ事を社會に知らしめたかつたからでした。今迄も私と同やうな境遇に陷られた婦人が何程あつたでせう。四五の婦人が私の所へ訴へ

て來た事もあり、昨日も手紙をくれた婦人がありました。……實際私自身はどうなつても、婦人全体の爲めに妻の權利を主張したいのです。これ丈はどうしても決定をつけて置かねばならないと思つて居ります』との決心を語られました。

其後清子さんと泡鳴氏との關係は全く絕えてゐたが、九月末頃泡鳴氏先妻の男兒を泡鳴氏に引渡し清子さんの父君が上京して家を護つてゐられるさうですが、清子さんは語を次ぎ『泡鳴氏は私を實際上妻として待遇せぬに拘らず、昨日私が友人と散歩して留守にした間に、私の宅に來て色々品物を持て行つたんですよ』と泡鳴氏の非常識な行動を笑はれました

泡鳴氏の前妻竹腰こう子は芝區西久保八幡町九に下宿屋を營んで居り以前から清子さんと交際して居られたがつい數日前にも訪ねて來て種々慰められたさうです。最後に今後如何なる方面に向はれるかと尋ねますと、清子さんは『今日迄三ケ月ばかりは何うにかやつて來ましたが、今後は何うなりますか。兎に角、小說を書いて原稿生活に入るつもりです。私としては評論の方が得意ですが生活の爲めには小說の方が都合がよはと思ひますから。……只今一寸した物を書いてゐる所です』と今後の生活に對する强い覺悟を其眉宇の間に見せてゐられました(畢)

年上の女との結婚が殖る

統計上夫妻の年齢

每年の結婚三万人

東京二百万の市民の內、毎年凡そ三万人づゝが婚姻を結びますがその中一割五分位の離婚がありますので、實數一万三千組の夫婦が出來るわけです。一夫婦五人の出產率だとして、六万五千の子供が此人達から生れる譯ですが、この全數から成年以下での死亡者三分の一を引去つて、殘る四万三千餘人、これがやがて世を益したり、呪つたりするやうになるのです。

配遇年齡の差

最近我國では、殊に都會では配遇年齡の差か激しくなつて行く傾向があります。これは生活難職業難のために、男が一定の收入を得るのに容易でない所から結婚して家庭を造ることが遲くなつたからでありませう。今十七年前と昨年との各三千組の婚姻に就て統計を取つて見ますと、男子年長の數は次のやうです。

年齡	明治卅一年	大正三年
一年より三年まで	一、〇二〇	八四八
四年より七年まで	一、一八七	六〇一
八年より十年まで	三九一	八一〇
十一年より十五年まで	一二一	三一二
十六年以上	八五	一三六
平均差	三年八ケ月	六年十一ケ月

この統計を見ると、一年より三年までの差の夫婦は十七年前も昨年もそれほど數の相違が甚だしくありませぬが、八年より十年、十一年より十五年の差の夫婦になりますと倍數以上になつて居ります

最も注目すべき現象

尙注目すべきことは、年上の女と年下の男との婚姻が非常に多くなつたことです。これは新しい女に見るばかりの現象ではなく、婚期のおくれた女が年上の男の所へ行つて、世帶の苦勞や先妻の遺兒を育てるよりも、年下の男と好いた同志、氣樂に暮らさうといふやうな考へを持つやうになつたからでせう。今其統計を見るに、

年齡の差	明治卅七年	大正三年
夫婦同年	一一一	一六六
十年以下	五九	七五
十年以上	二六	四二

これに依つて見ると、十年以上年上の女との結婚が大變增加したことが解る。かういふ傾向は漸次增加して、今に年上の女と年下の男との結婚を敢て怪しまなくなるだらうと思はれます。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

文展に現れた閨秀作家

長吉

文展も回を重ねる毎に優秀な女流作家を増し今年の第九回に及んで松、蕉、成の三園を始め小坡玉葉蘭香千種の七作家を數ふるやうになり、然も松園は二等賞を小坡蕉園は三等賞を成園蘭香は褒狀を得て此處に文展に於ける女流作家の一勢力が稍認められるやうになりました、殊に女護の島など云はれてゐる美人畵のみ陳列された一室は寧ろ女流作家の爲めの陳列室のやうに感ぜられ女流作家の作品が殊に異彩を放つてゐるのに驚かれます、就中、伊藤小坡女史の『製作の前』蕉園女史の『歸り路』千種女史の『針供養』成園女史の『稽古のひま』、玉葉女史の『お鶴』蘭香女史の『霜月十五日』など、何れも各個の特色を發揮して居ります。

▲女流作家の白眉

小坡女史は是まで毎回出品して居たが不幸にして落選をつゞけ今度始めて入選し一躍三等賞を勝得たのであるが此『製作の前』と題した作品の上に現れた女史の態度は最も溫健で幅もあり奥行もある未來多き作家として推奬するに足るものがあります。殊にいかにも女性的な雅致に富んだ點に於ては、女流作家中の白眉で技巧も又優秀で徒に繊弱に走らずしかも細心の用意が廣い畵面の中に緊張した形となつて現れてゐるのは驚嘆に價します。

▲成園と千種

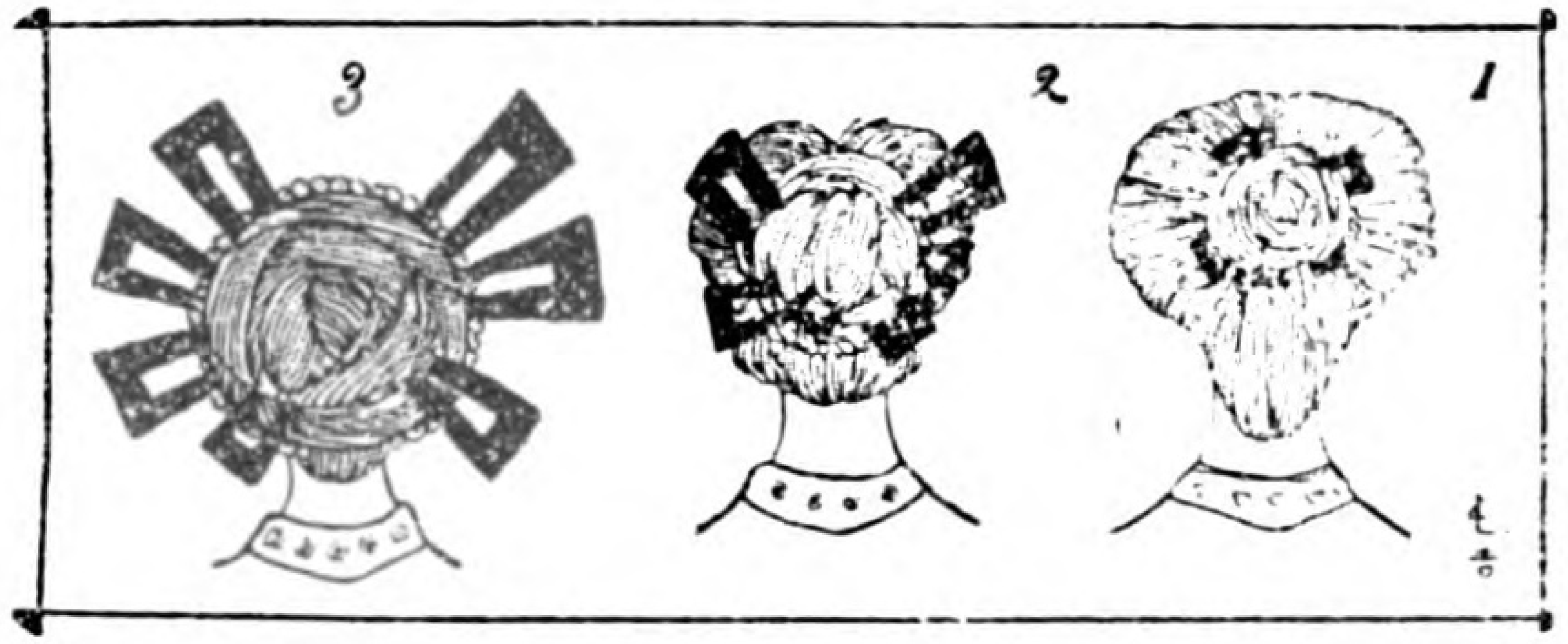
之に反して成園女史及千種女史の作品は共に大阪趣味に立脚して其地方色表現に努めて居りますが一見灼爛細巧目を奪ふやうな鋭い感觸を覺えるけれどそれは單に目に訴へる極皮相な印象的美感で心に親しむ内的美感ではありません徒に精巧な技術の末に流れ其背後に潜んだ最も藝術的價値ある内的生命を輕んづる傾向は今度の文展全体を通じて發見される事實でありますが殊に女流作家は此欠點に陷り易くよし其部分描寫の發達と努力に相當の敬意を拂ふべき價値があるとしても是の藝術の將來を思ふ時には極力此弊を呪はなくてはならない。大阪趣味を極力表現しやうと念懸てゐる所は作家の貴い所であるが材題を具に解釋することが最も肝要のやうに思はれます。殊に千種女史の方はより以上に印象的で强烈な色彩を配列してゐるがそれはまだ千種女史自身のものとして現はしてはゐない、其師匠ともいふべき北野恒富氏の懷から脱出る時が近き將來にあらうと思ふ。

蕉園と松園

蕉園女史の『歸り路』は畵面が散漫で統一がない、前年の作より劣つてゐるやうであります。蘭香女史の『霜月十五日』は一番若々しくあの大作をよくあれまでに畵きこなしたと敬服します。寧ろ將來の作品を囑望するものであります。最後に上村松園女史の花筐は美人畵室からひとり離いで大家揃ひの中に出陳されてゐますが前年に比べて見劣りがする女史としては失敗の作でありませう、狂女といふ至難な材題を捕へ其目、唇などの表現に云ひしらぬ苦心のあとが見えますが聊か荷の重過ぎた感がありますしかし其筆致點彩の巧妙は益々洗練され何と云つても同女史は一日の長であります。

回束髪の將來

近頃婦人の束髪が次第に大きく束ねる傾きがありますが大きくなればなるほどヘーヤピンの數が多く用ひられ中には、後から見ると恰かも乱杭のやうに見える向きもあります。この傾向がだん／＼遍師に進んで行くとヘーヤピンも次第に大きくなりしまひには昔の花魁の一笄に似た形になりはしますまいか。こう考へると大正十年頃には第三圖のやうな花魁風の婦人が東京市中を濶歩する事になるが、さうするとなか／＼見物であります、第一圖は普通是までありきたりの束髪、第二圖は近來はやりかけた束髪、第三圖は將來を豫想した束髪。



Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

生命の水

(一)

巣鴨村人

昔むかし、ある王樣に、三人の息子がありました。王樣は大變病氣で、どんなお醫者でも治すことが出來ませんでした。王子達は泣きながら御殿の御庭を歩いてをりますと、小さなお爺さんが來て、どうしたのかと尋ねました。王子達が譯を話しますと『生命の水といつて、一口飮めば、どんな病氣でも治る水があるがそれを取るには大變六ヶ敷い』とお爺さんが言いました。すると長男の王子は『私がその水を取つて來る』と言つて、王樣のそばへ行き『生命の水を探して來て、お父さんに差上げます』と言ふと、王樣は『お前をそんな危い旅に出すよりも、私は死んだ方が善い』と言はれました。けれど長男の王子が無理に賴みましたので王樣は行くことを許しました。長男の王子は大喜びで『生命の水さへ持つて來れば私はこの王國の後繼になれるのだ』と獨り語を言ひました。

長男の王子は御殿を出て、餘程行きますと、深い谷があつて、岩がでこぼこして、森が繁つてゐました。あたりを見廻しますと、小さな醜ならしい一寸法師が砂糖袋の帽子を被つて、赤い衣物を着て岩の上に立つてゐました。一寸法師は王子を呼びとめて『若樣どこへ御出になります』と言ふと、王子は『貴樣の知つたことか、一寸法師め』とぷり／＼言つて、馬を進めました。

一寸法師は王子の無禮を怒つてまじなひをしましたので、山路がだん／＼狹く險しくなつて、一歩も進むことが出來なくなりました。王子は馬を後へ向けて、引返さうとしますと、大きな笑ひ聲が聞えました。歸り路も無くなつてゐるのでした。止むをえず、馬から下りて、歩いて歸らうとすると、又笑ひ聲が耳はたに聞え、歩くことも出來なくなつてゐました。まじなひのために全く身動きが出來ないのでありました。

病人の王樣は王子の歸るのを毎日待つてゐましたが、音沙汰がないので、次男の王子は『お父さん私が生命の水を取つて參ります』と言ふと、王樣は又行かせたくなかつたのですが、漸く行くのを許しました。次男の王子は『兄さんが死んだので、生命の水を持つて來れば、王國は自分のものだ』と獨り語を言ひました。

次男の王樣は兄さんが通つた同じ路を行きますと、例の一寸法師が同じ場所に居りまして『若樣、若樣、どこへ行きますか』と尋ねますと『自分の頭の蠅でも追へ、一寸法師め』と王子はぷり／＼言つて馬を進めました。

一寸法師は又まじないをしましたので、次男の王子も兄さんと同じやうに、山の中で身躰が動けなくなりました。

次男の王子がいつまで待つても歸つて來ないので、今度は三男の王子が生命の水を取りに出かけました。

子供の智慧

回動物園へお嫁に

守さんは今年六つの男の兒ですが、動物が非常に好きで、寐ても起きても犬や獅子の話しばかりしてゐますので、お母さんがお友達に其話しをなされ『この兒は動物園にお嫁に行くとよい』と仰しやると側で聽いてゐた守さんは『いやだい、女らしいやい』と申ましたが、よく／＼考て見ると、動物園なら御嫁にいつても善いと考へたらしく『こんな衣物では、御嫁にゆけやしない』と附たしました。守さんは、其日惡戲をして、掻裂きだらけの衣物を着てゐるのでした。

◎投書歡迎

皆樣の御家庭でお子樣方の言れた面白い事を何卒御通信下さい。

新刊紹介

◉男女對等論（麻生正藏 大多和たけ子）共譯

原著者デンスモーア氏は、米國紐育の有名な醫者で、婦人問題に多大の興味を有し其研究の結果を發表されたのが、本書である、男女性質の異同問題や、婦人の能力問題や、婦人の職業、結婚問題など著者の獨得の解決がしてある、譯者大多和女史は女子大學出身の隱れたる飜譯者で、能く原文の意を酌んで極めて平易に譯しこなしてゐられる婦人方を始め婦人問題研究者の是非一讀すべき書であらう（定價壹圓貳拾錢牛込區通寺町南北社發行）

◉麝香撫子及伊勢撫子（千葉晩香著）

本書は園藝家として有名なる千葉氏が其の實驗の結果を公けにされたもので、極めて平易簡單に園藝の祕傳が書いてある所がいかにも嬉しい（定價三十五錢京橋銀座讀賣新聞社發行）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

小説

奴隷（其一）

松本雲舟

一

『私の心はあなたの前には折れてゐるのですから』と敏子はいつも政雄にさう言つた、政雄の親切に絆されて動きの取れなくなつてゐる敏子の心を言ひ現はすには、それ以上適當の言葉はなかつた。けれども敏子はどうしても政雄と生涯一緒に暮らさうといふ氣になれなかつた。政雄には將來伸立さうな素質があるのを認めないのではない。けれども趣味や性格があまり違ひ過ぎた。雅致や作法を尊ぶ癖のある敏子には、率直で野趣のある政雄と甚麽しても肌の合ぬ所があつた。政雄の親切を嬉しく思つても、もつと廻りくどく優雅な親切でありたかつた。

『あの人と一緒になる……』敏子は恁う想ふと、なんとなく鶴が泥田にでも下りてゆくやうな氣がして、『いや、いや』と心に拒絕した。

けれども磁石のやうな政雄に引着けられて、其處を離れるとが出來なかつた。政雄を離れた自分を考へると、荒野に立つやうな氣がして、いかにも賴邊がなかつた。一歩先に進むとも出來ず、又一歩後へ退るとも出來ぬ敏子は、自分の境遇を憐に感じた。

『私の心はあなたの前には折れてゐる』、敏子の恁ういふ告白は、普通の女ならば、男の要求を容れたものと解してよい。だが、敏子のは、さうでなかつた。まだ胸の奥底に反抗する或るものがあつた。敏子は種々な口實を設けて、政雄の要求を避けた。

二

政雄は敏子のかういふ煮え切らぬ態度を却て美しく思つた。敏子が反抗的態度を示せば示すほど、敏子を並ならぬ女と觀じた心が折れてゐながら尙自分の要求を容れない。生涯を共にするといはないのは、いかにも珍しきとと想つた。

『敏子さんが、これだけ自分に骨を折らせることは、後から考へたら、いかにも愉快だらう』

こんな風に政雄は考へた。『男の要求を直ぐ容れるやうな女なら、愛する値はない。またさういふ愛は醒め易い。山を越え、谷を越えて苦しい想ひをすればこそ、愛が熱烈になるのだ。淸淨な心の敏子さんが然りと言はぬ所が花だ』。

敏子の逡巡は、益々政雄の愛を熱烈に聖化した。美の權化、愛の女神、あらゆる讚辭を心から捧げるのであつた。

三

男の心をこれほどまで足下に踏み着けた處女には、言ひ知れぬ誇があつた。人の心の魔は怖ろしいもので、敏子の心には、遊戯的分子が入り込むやうになつた。敏子は無意識ではあるが、男を弄ぶやうな氣になつた。さうして怒つたり、すねたりした。眞面目な政雄は、それを眞實に想つて敏子を撫だめたり、謝罪つたりした。

『政雄さんは私の奴隷』敏子はかう想つて、ハッと驚いた『こんなとを考へては、すまない、すまない』と胸を抑て煩悶した。さうして情の籠つた手紙を書て政雄に送つた。政雄からは直に返事が來た然も其は敏子のやつた手紙よりも

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

二倍も長く情熱が紙上に溢てゐた敏子はこの返事を讀むと、又『私の奴隷？』といふ文字が眼の前に浮んで來て困つた。そうして自分の奴隷になつてくれる男でなく、自分を怒隷にしてくれゝやうな人が戀しくなつた。

『あゝ、政雄さんが……』と敏子は深く想ひに沈んだ『自分が政雄さんの要求を許さぬ眞實の理由——その理由は私自身にさへ言ふとが出來ぬのだが、其理由を政雄さんに話したら、どんなに驚くだらう、失望するだらう、けれど其理由は私自身にさへ話せぬとだから、まして政雄さんには話せない。あゝその私を怒隷にしてくれる人、その人が政雄さんであつたら……』敏子は身を悶へて深く嘆息した。

芝居の女

一つ家のあさぢ

大村嘉代子

帝劇の十月興行でやつた『一ツ家』は默阿彌翁の作で新古演劇十種の内に加へられてある狂言でございます。之れは阿國雜記に出てゐる石の枕の話を面白く仕組んだものでせう。

▲稚子姿の觀世音

淺茅が原の一つ家に、あさぢといふ美しい娘を持た年とつた母親があつて娘に美しい着物を着がさらせて出世をさせたさに道行く人を泊めて石の枕に寐させ用意の釣石を落して旅人を殺し着物やお金を奪つて居りました。娘はそれを大變悲しく思つて程近い淺草寺にどうぞ母親の惡行がなほるやうにと毎日いのりました。觀世音は娘の殊勝な心にめでて或る時あでやかな稚子姿となつて此の一つ家に一夜の宿を求めます。老婆いばらは美しい着物をきた稚子姿を見て大喜びて糸を繰つて糸繰唄を歌つたり、そばがきを差上げやうか等と云つたりしてもてなします。そこへ娘は淺草寺から歸つて來て枝折戸の外から旅人の泊つた事を知つて今夜も憐らしい事が行はれると嘆きます。

▲稚子に對する娘の戀

家にはいつて初めて逢つたあでやかな稚子姿に娘は思ひをかけます。老婆と娘とはお稚子に京の物語を望みます。お稚子は京のはなやかな名所の話をおもしろく語ります。長物語りに夜もふけて粗朶の火も消えかゝりました。老婆は粗朶をとりに背戸に出ます時娘を密とよんで、何時もの通り石の枕の手筈を忘れるなと申します。娘は強い母親の心に引づられて承知の旨を答へます。併し娘は家にはいると母親の云ひつけは忘れて心からお稚見に云ひよります。美しい二人は手をとりあつて一と間のうちにはいりました。背戸から出てきた老婆は、助骨のあらはな肌を肩ぬいで冴ゆる月に大鉈をとぎすましました。ぬきあしをし家の中にはいつた老婆の手に擬りあげられた大鉈は用意の釣繩を切り放しました。ヅシリと大きな響をして一と間のうちから娘がころがるやうに出て來まして老婆の裾にすがります。老婆は娘を蹴倒して一と間のうちに入りますと彼の稚子の姿は見えません。

▲娘可愛さの惡行

驚く母親の前に手をついて娘はお稚子さんは私がにがしましたといひます。さてこそとばかり老婆はお稚子のあとを追ふとします。娘はやるまいと留ます。老婆は此の年になつて私が此んな惡行をして居るのもお前が可愛いばつかりだ可愛いお前に美しい着物を着せたいばつかりに無間地獄の苛責も厭はずにこんな惡行をして居る母をお前は何と思ふ母の心を知らぬ不孝者と罵しります。娘は池に身をなげて死ぬ故どうぞ惡行は思ひ止まつてと申ます。老婆は此の年迄の育ての恩を思はずに死ぬなどゝいふ不孝者は身をなげる迄もない親が手にかけて殺してやると云つて鉈をふりあげます。

▲老婆が懺悔の死

老婆はおそろしい形相してが大鉈を娘の咽に下さうとしますと身体がすくんでごうしてもうごきません。お稚子は忽然と現れて我は觀音である、惡婆よ善心に立かへれと申します。老婆は前非を悔いて姥が池に身をなげて死にます。此れが一つ家の梗概でございます。

▲娘を殺させたい

私は此のお婆さんに娘を殺させてしまつた方が、面白いと思ひます。併し、おばあさんは、年寄の一徹心から自分が望むものは娘も乾度望む處だらうと考へて人殺しのやうな怖ろしい事もするのです此おばあさんのやうな悲しい矛盾を持た人は世間に澤山あります。こんな人は觀音樣のお姿を見たつて善心に立かへるものではありません。娘を殺してしまつて初めて自分が何の爲に惡行をして居たかに心づくのでせう。

近藤畫伯の苦心

小說「奴隸」挿繪のモデル

小說の挿繪に新機軸を出さんと近藤浩一路氏は本紙所載「奴隸」の挿繪を描くに非常に苦心し、同氏夫人をモデルになし「もつと煩悶してゐるやうな格好をしてゐてくれ」と言ふと、無邪氣な夫人は「だつて私、煩悶したことなどないんですもの」と答へられたとやら。

養生法の自然主義

薄田斬雲

養生法の極意より善きを求むるにありで、不養生をしないと云ふ事です。即ち無理をしないで自然に從へと云ふ事です。私は養生法の自然主義を唱へる。早起が薬だと云ふが、早起きする爲めには早寢しなくてはならぬ、睡眠不足の生欠伸をしながら運動したとて達者にはなれない、穀類の如く保存質の物は四時の常食ともなるが、野菜や果實の如き季節物は其出盛り物を喰ふのが本當だ、走り物や、態々と違時きにした季節外れの物は、其常性に缺くる處があつて人体に有害なものと思ふ。自然は其季節に適應したものを産出する、我々は季節物を喰はなくてはならぬ。何んでも自然に從へ、是れ以外に養生法はない―否我々の養生的努力が續かない。

▲群雄割據の養生法

昨今の樣に種々の新奇な養生法が筍的に發生する場合、一々之を採用しやうと思ふと我々は奔命に疲れ養生法の中毒を起して新養生法の爲めに討死を遂げそうだ。

私は好きな物を喰ひ好きな樣に躰軀を保つて、氣が咎める樣な不養生をしない、所謂新薬、新療法新養生法などに對しては冷靜に其成行きを觀て犇と胸に思ひ當る樣な適例に出會す迄は輕々しく之に應じない。今日は養生法の群雄割據時代、古きものを忘れて新しきものが人氣を博ずる、一種の際物一時の流行としか思へない、一々耳を傾けて居ると自分の心は迷ひ出して養生病と云ふ四百五病の外の病に罹る。

▲日本唯一の養生學者

醫學に精通し宇宙自然の道理に徹底し一代の導師たるべき人でなくては眞の養生法を獲得する事が出來ない、養生法は妙術でない、人間自然の大道である、私は今日一流の醫學者が、市中の賣薬や諸種の養生法に對して何等の批判を加へぬ事を不思議に思ふ、但し今日の醫學者は毒を以て毒を制する消極的養生の研究に日も足らずして、積極的に人間の健康を増進すべき方法を研究する餘裕がないと云ふならば致方もないが、斯の如き醫學者は醫學の中毒に罹つたものである。かくして村井弦齋君は日本に於ける唯一の養生學者で其前には三浦青山兩博士も顔色なしと不思議な現象を呈する、かくして衛生体育養生と云ふ文學は健康を増す事の代りに人を疲弊昏迷させる、斯かる時我等の據り處は『氣の付いた不養生をせぬ、唯自然に從ふ』と云ふ一點に存する。

▲養生法の中毒

私が今一寸思ひ出した養生法ばかりも大分ある、石塚左玄氏の玄米食、深呼吸法、鐵啞鈴、腹式呼吸、乾浴法、塗擦法、紅療法、氣合術、催眠療法、川合式強健法、横井式呼間療法、ラヂユーム療法電氣療法、抵抗養生法ツベルクリン注射法、神經衰弱注射療法、其他何々の灸點療法など、まだ／＼其他にも澤山あるだらう、其何れもが、天下唯一の養生法にして當代の醫者殿何をして居ると言つた万能の効果を述べ立てる、併し是等は大低試驗時代に在るもので輕々に信用する譯には行くまい、此中にはモウ廢れかゝつて居るのもある、外より力を加へられざる自發の深呼吸は無理な方法で益がないと言はるゝ、ツベルクリン注射法に對しては外國でも異論續出して居ると云ふ。電氣療法ラヂユーム療法も思つた程の事も無さそうだ、抵抗養生法の如きは「養生法の中毒を脫して自然に返れ」と言つたものである。

▲誌友自得の養生法

本誌に於ては、是等當節流行の養生法に關して詳細な研究を試みると言ふから、誌友諸君も各自の研究や實驗を此誌上に寄せて互に智識の交換をしたなら意外の益を得る事と思ふ。尚次號には私の慢性胃腸病者として二十年間の實驗養生法を述べます。

初冬と子供

厚着をさせるな　皮膚をきたへよ

冬の初めに子供の身体に就て注意すべき事は風邪をひかぬ樣にする事でせう。夏中に弱つた消化器は秋に至つて快復されて初冬に於ては既に整つて居ますから消化器の方の注意は第二として、寒い風が吹き初めると先づ犯される皮膚と呼吸器に對する注意が大切です

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

風邪を引かぬ注意と云つた處で防寒の用意をするのではありません寒い風に當つても風邪をひかぬやうに皮膚と呼吸器を鍛てゆく事てす。

△寒さを感じない程度に

それ寒い風が吹いて來た、足袋を羽織をマントを股引を襯衣をとありつたけの冬裝束をきせて、際子も襖もしめきつてしまふお母様をよく見うけますが、それでは嚴寒になつてその上の厚着をさせる事が出來なくなるばかりで、強い子も弱くしてしまひます。冬のりつきには温かにくるむといふよりは寒さを感じない程度に着せておかなければなりません。生兒は大人よりも一枚余計に着せると申しますが、もう四五才以上になつては寧ろ大人よりも薄着の方がようございます。初冬になるべく薄着をさせて寒い風にも當らせておくと自然に皮膚は鍛られて嚴寒になつても風邪をひかぬやうになります。乞食の子供が薄い着物で雨にぬれ、ぬかるみに座つて居ても丈夫で居るのは、鍛られるといふ事が如何に人間を強くするかを證明して居ります。

△弱い子供の注意

併しそれは丈夫な子供に就て云ふので弱い子供は丈夫な子供と一處にはあつかはれません。殊に呼吸器の弱い子供は早朝と夜の冷たい空氣とに觸させないやうにしなければなりません。夜にかけて外出する時などは、假令晝間はあたゝかくとも、ねんねこかマントの用意を怠つてはなりません。併しいくら弱い子供でも、例の冬裝束は一時にさせるには及びません。足袋から股引、襯衣、胴着といふやうに寒さの進むに從つて順に着せてゆかなければなりません。そうするのには正確な寒暖計を供へておいて、よく寒さの變化について注意する事が肝要です。それから時候のよい冬の初めは丈夫な子供も弱い子供も郊外の散歩を充分にとらせたいと思ひます。

五百圓内外の婚禮着見積表

故徳助氏夫人 菅野田鶴子

擧式當日之衣裳

一黒縮緬裾模様留袖 二枚襲壹組金六拾圓也
内譯
一金貳拾貳圓也上着表生地縮緬引返付一反
一金拾五圓也 全黒裾模様染代
一金拾二圓也 下着表生地紋羽二重引返付
一金六圓也 裏地用白羽二重 二枚分
一金五圓也 眞綿及仕立代

一色縮緬江戸褄模様 二枚襲壹組金六拾九圓五拾錢也
内譯
一金三拾三圓也上着表生地縮緬 六丈六尺物一疋
一金貳拾圓也 右色模様染代
一金四圓也 胴裏用鴨川友仙羽二重代
一金七圓五拾錢也裏地用紅絹 貳枚分
一金五圓也 眞綿及仕立代

一緋縮緬長襦袢 壹枚 金拾七圓也
内譯
一金拾貳圓也 緋縮緬 一枚分
一金四圓也 裏地用紅絹代
一金壹圓也 眞綿仕立代

一糸錦織丸帯 壹筋 金四拾三圓也
一金通し珠珍 壹筋 金拾七圓也
一白丸ぐけ帯締 壹本 金六拾錢也
一白紋縮緬帯あげ 壹本 金壹圓五拾錢也
一腰紐 壹本 金壹圓三拾錢也
一白羽二重半袷 壹掛 金壹圓也
一友仙模様半衿 壹掛 金壹圓三拾錢也
一友仙縫取模様半衿壹掛金壹圓七拾錢也
一白羽二重足袋 壹足 金九拾錢也

冬着衣裳

一縞御召下着更紗縮緬 二枚襲 壹組 金四拾圓也
内譯
一金拾五圓也 西陣御召 一反
一金六圓也 更紗縮緬 半反
一金拾圓七十錢也胴抜及裏地用紅絹二枚代
一金六圓五十錢也羽二重裾廻し 二枚
一金二圓五十錢也綿及仕立代

一縮緬紋付羽織 壹枚 金貳拾四圓八拾錢
内譯
一金拾參圓也 白縮緬三丈物 一反
一金壹圓八十錢也色紋付 染代
一金五圓也 友仙羽裏地代
一金壹圓也 袷裏及仕立代

一友仙縮緬袷長襦袢 壹枚 仕立上げ 金拾八圓也
一唐縁京華織合せ帯 壹筋 金拾五圓也
一共縞御召コート 壹枚 金貳拾四圓也
内譯
一金拾五圓五十錢也共縞御召 一反
一金六圓也 裏地用友仙羽二重 一枚
一金貳圓五十錢也仕立代

一御召江戸褄織模様 引返付袷 壹枚 金三拾六圓廿錢也
内譯
一金三拾圓五十錢也無地御召織模様縫紋付 一疋
一金壹圓七十錢也仕立代
一金四圓也 紅絹裏 壹枚

一大嶋紬袷 壹枚 金貳拾貳圓也
内譯
一金拾五圓也 大島紬 一反
一金貳圓五十錢也 羽二重裾廻し 一枚
一金三圓五十錢也 白絹胴及仕立代

一髪飾
一金拾五圓也 島田用櫛笄松竹梅の 三揃 壹組
一金貳圓也 前ザシ
〆金拾七圓

夏着衣裳

一薄色絽裾模様 一襲 金貳拾五圓也
内譯
一金拾貳圓也 白絽 一反
一金七圓也 裾模様染代
一金五圓三十錢也白練絹 一反
一金二圓五十錢也裏袷 仕立代
一御召單衣(仕立上げ)壹枚 金拾五圓也
一透華織丸帯 壹本 金拾八圓也
一絽友仙長襦袢 壹枚 金拾五圓也
一惣桐簞笥 壹棹 金貳拾五圓也
一鏡臺 一個 金五圓也
一手簞笥 一棹 金五圓五十錢也
一針函 一個 金貳圓也

總合計五百二十圓

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

實益ある

冬の平常着

▲奥様向きの平常着

本年は御大典の爲祝着などには種々これに因んだ模様も御座いますが、平常着にはあまり影響を見ないやうです。まづ奥様むきの平常着と致しますと、瓦斯ものでは新大島、瓦斯紡績等で、主に柄行はかすりで、羽織等には大層よろしう御座います。價格は三圓四五十錢位で割合にお格好です。も少し上等では秩父、伊勢崎産のかすりで、五圓から七圓位まで、節八端は七八圓から十圓止まりで、柄行も澤山ありますし、中々お上品で實用向に出來て居ります。琉球米澤は七八圓でございます。色合等は一般はやはり沈んだ色の方が多く、柄は今迄のやうに縞物か、絣でなければ、縞にかすりを飛ばしたものなどは、上品のものが澤山あります。その外にはまづメリンスですが、これは主に片面で今度半綿入りで、毛織の縞モスリンといふものが出來て居ります。値段は三圓內外で普通メリンスのやうに片面で無く、兩面がきゝますし、坐つてあまり皺にもならず變色も致しませんから平常着には非常に適して居ります、勿論縞ばかりですが、色々新しい工夫が試みられて居ますから大に歡迎されて居ります。

▲本年流行の柄合

本年一般に用ひられて居る柄は黑地に茶鼠の子持辨慶或は龜甲くづし、花菱つなぎ又は龜甲つなぎで、奥様むきのものとしてはモスリン紫のやがすり又は縞白飛模様などが着物に適します。羽織は同じモスリンでも小花模様で一般に紅氣の少ないものを多く用ゆるやうになり、又紡績で青に海老色とか海老色に茶とか申しますやうな二三の色を入れたものが多いやうです。これは三圓內外で値段も安く着き引き立つやうです。

次は裏地ですが胴裏は白い黃金瓦斯が輕くて又汗や何かで、裏が表へ拔けるやうな事はありませんから安心です。裾廻しはモスリンふじ絹で色は白茶、クリーム、青磁などがやすく好んで用ひられて居ます。節八端、銘仙位になりますとふじモス位がいゝでせう。

▲帶と兩襟袢其他

帶は輕いのではモスリンに越すものはありません。此外一寸したものならば瓦斯織です。いづれも出來上り六圓內外。晝夜帶ですと博多、繻珍など天平式即ち御大典模様と申すやうなものがございます、長襦袢はメリンスの絞りが最も流行して居ります。鼠色に茶黑地に赤、茶に紫などを配して模様などにも色々な工夫がこらされて居ます。それでなければやはり友禪がいゝやうです。半襟は昨年あたりよりも模様が少々大ぶりで草花を具合よく配置したものが多く、地色も藤色ですが、特に藤鼠紫、クリーム、青磁、鳩羽鼠などがいゝでせう。上等のものには矢張刺繡が多く二圓五十錢から三圓位で、色染ならば五六十錢から一圓二三十錢です。以上の外帶上げ下〆など昨年と大差ありませんが、帶〆の金具は多少小さいのが流行の傾きです、粹好きの方々も平常着としては大概上述したものか黑襦子の半襟をおかけになる位の違ひで柄合は大差ありません。

わきがの療法

帝大講師 醫學士　片山國幸氏談

▲わきがと入浴

腋臭即ちわきがに罹つて人知れず非常な心配苦勞をして、種々なる治療を試みて居らるゝ御方が數少くないと存じます。西洋人は習慣上、此の皮膚病にかゝつて居る者が實に著しく、吾人の意想外とする所でありますが、彼地の人等は自然と此の惡臭に慣れてしまつて居て少しも氣にとめません。反之潔癖なる吾々日本人はわきがの嫌な臭をかいでは胸が惡くなつてとてもぢつと堪へては居られないのであります。所で此の皮膚病は普通身体の弱い方や衛生を顧みない方々に起るので、其の證據には西洋でも衛生の進歩した獨乙殊に伯林の中流及び夫以上の人々には余程減少したと申すことであります。近來伯林では何處の家屋にも地下室に釜を設備して二六時中到る所で湯を使用することが勝手に出來ますから、從つて伯林の中以上の人達は一日に何度でも入浴が出來ると云ふ風で、他國よりも獨乙その中でも田舍よりは伯林の人達には一般に皮膚病が減少して來て居るのです。されば人間にとりましては入浴は誠に衛生上大切な

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ことであり高襟がつて西洋の惡い習慣をまねて何も度々入浴する必要はないなどと、通かつて皮膚の汚れを保存して遂に容易に治癒し難き皮膚病に罹るなどは餘り氣のきいたことでないと存じます。

▲わきがの病源

皮膚の組織的構造を申せば表皮、眞皮、下皮組織の三層から出來て居りまして、脂腺肝腺及毛髮は實に眞皮にその根底を有して居るのであります。わきがの病源たる汗腺は、上述の通り眞皮深層より、發して居りまして、汗腺は汗腺體排泄管及び汗孔の三部から成立して、汗は汗腺から分泌せられ排泄管を通過して汗孔より体外に出るのであります。此汗水が變化致しまして一種堪へ難き惡臭を發します病氣がありまして之を臭汗と申します、足から惡臭を發するのもこれに屬し本病が腋窩に來れば、腋臭と申すのであります。わきがは年頃の御方に多く殊に神經衰弱、貧血に惱む方に發し易いのであります。

▲レントゲン線の恩惠

療法としては第一身体を丈夫に遊ばすのが必要で、冷水摩擦、温泉或は海水浴等がよろしい。その他なるたけ汗を出さない工夫をなさいまして、局部には朋酸又は明礬の粉末をつけて常に乾燥さするのが宜しいのであります。腋臭は果して不治かと申すに適當な時期に適當な療法を行へば勿論藥を以て之を全治せしめ得るのですが、病氣が頑固なのと患者に忍耐力が欠乏せるとが大源因となり藥治療法も殆ど其効を現すことが出來ないのでもります。然るにレントゲン線が發明せられ其効果治療範圍が研究の進歩と共に廣がりて發汗過多症にも該線が有効なることを確かめらるゝに至り腋臭を實地に治癒せしめ得ることになつたのは進歩した醫學の恩惠であります。

御大典日常の献立

吸物

▲三種のみたから　慈姑を御鏡にかたどりて輪切りにし、昆布を御劍になぞらへて適宜に切り塞の目に切つて蒲鉾を神樹にかたどる

▲吹口は柚子。

口取

▲旭蒲鉾。

▲松のさかえ　普通の栗のきんとんに、長芋の裏漉にしたものを青粉でそめて糸にかける。

▲菊むすび　さよりを三枚におろし結んで串にさし玉子の黄味を幾度もつけなすりやいて串をぬく。

▲末廣松茸　松茸の傘づきをとり堅にうすく何枚にも庖丁をいれ根はしをきりはなさずに末廣の形にして煮一切味淋と醤油で味を付る

▲車海老。

皿

▲鯛の鹽燒。

▲菊の花小かぶ　頭つきの鯛を鹽燒にして皿につけ菊の葉を三枚しいた上に菊の花小かぶをおいて唐からしを小口にきつて蕊にす。

小皿

▲松茸つと豆腐、芹の薄あん掛

猪口

▲黄菊、

▲胡桃びたし。

主婦の手帳

▲子供の歯痛み

子供の歯の痛む時歯醫者に連れて行つてもなか〳〵痛む歯をみせないものです、そういふ時は一時痛みを止めてから歯醫者につれて行く方がようございます、痛みをとめるには重曹とグリスリンとを等分にまぜあはせた液を脱脂綿に含ませて痛む歯につけるなりつめるなりしますと痛みは直ぐ治ります、此液はしみもしなければすこし位のみこんでも毒にもなりません、甘い味がするので寧ろ子供はよろこびます。

▲子供の鼻血

子供の鼻血を止めるには鼻柱を水で冷やしたり頭を低くして寢させたりいろ〳〵な方法がありますがその中でも一番簡便で直ぐに効果のあるのは鹽化アドリナリンの注射です、注射といふと大變億劫なやうにきこえますが、眼藥について居る點眼の管で一滴鼻の穴に落せばいゝのです、鹽化アドリナリンは一瓶二圓位ですが、長く蓄へておかれるのですから鼻血の出る癖のある子供を持つ家では一瓶そなへておく必要があります。

△器物の汚點

銀瓶銀盃銀の花瓶銀時計等すべて銀で造られたものに汚點が出來たり曇つたりしたときは、アルコール分の多いなるべく安價な香水を布にふくませて拭きますと美しく輝きます。それ等のものを拭ひ終つた布で鏡や硝子をふくと綺麗になります。これは香水でなくたゞアルコールだけでもよろしいのです。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

身の上相談

私が責任者となりて、皆様の御相談相手になります。人生には右へ行かうか、左へ進まうかと云ふやうな岐路に立つ場合があります。さういふ時に利害關係の伴なはない第三者の意見を聽くことは大變必要なとです。お稻荷樣や大道易者位のことは、私にも出來るつもりです。其故皆樣の中、自分で決しかねる問題があつたら、御遠慮なく御相談下さいまし。私自身にも解らぬとは、顧問もありますから、評議の上にて御答いたします。

私が斯ういふ事に深い興味を持つやうになつたのは、讀賣新聞の『身の上相談』を初めた時からで、出來るなら牧ふ者なき羊の群を尋ねて歩く牧羊者となつて一生を送りたいと想ひます。

松本雲舟

祖母と二人の子供

▲私の親戚に主人は沒し、細君は米國へ留學中で、後には六十になる祖母と二人の小さな女の子とが殘つてゐる家があります。遺族扶助料がありますので、祖母は之れで暮らし、二人の子は親戚で一人づゝ引取つてもよいのですが、祖母はどうしても孫達と一緒に暮らしたいと申します、且祖母は非常に元氣なので、人樣の仕事をして自活したいと申ます。其故二人の子供と一緒に、祖母に留守居でもさせて下さる御家はありませんでせうか、記者樣の御意見を伺ひます（丸子）

（答）▲あなたのさういふ御考は根本的に間違つてゐるやうに私にはさ思はれます。祖母が孫達さ一緒に暮したいさいふ願ひは尤もですが、他人の慈善心に訴へ、他人の厄介になつては、祖母も孫達も肩身が狹く、お互の愛情を滿足させることは出來ないのみならず、孫達は必らずひがんだ心になつてしまひませう。又他人の慈善心に賴ることは、よく〳〵の場合で、私共は出來るだけ、自分で自分の事をせねばなりません其故あなたのやうな御親戚が其の方達を世話するとが出來るなら、何も他人に厄介をかけないが宜しいです。兎角私共は常道を通らずに近道を取りたがる癖がありますが、やはり平凡な道を辿らねばなりません

家庭園藝叢談（一）

千葉晩香

△拾一月の上旬頃にバイオレットを水抜よき土質を撰んで小鉢に植付けまして、ソレチ日當りよき所に置きますさ、一月頃には開花致します、机の上或は又客間などに置きますさよいのです。

△若し寒氣の烈しき地方でありますさ植付けましてソレチ直ちに『フレーム』などに入れて管理するさ一ケ月内外で開花します。

△これから先管理が容易に出來て初春を飾るべき花はヒヤシンス、チユウリツプ、アネモネの樣なものである。斯樣なものは地植さしても鉢植さしてもよいのですが、地植の場合には排水佳良な上質に植込みまして其上に木の葉の樣なものを防寒用に敷き込んで置きたいのです。

△鉢植ならば排水よき土質で肥料ある土質に植込むのです。あまり深植でなく寒に負けぬ樣にしたいものですソウするには鉢の上に矢張り木の葉など、或は切藁など敷き込んで置けばよいのです。

△流行の草花スウヰトピースは京濱間では十一月一杯播種する事が出來ますコレは播き放して十分成育するものですが蔓が四五寸伸びた所で支柱を立てたいものです施肥は地中に含まれた養分で十分です

△伊勢撫子は畏くも先帝陛下深く御愛養遊ばされたもので相です元來其草姿優く花姿優雅なる点は確かに本邦の草花中第一でありませう

△此草花の播種は少し後れたが、併し京濱間では十一月初旬に播種したものでも花は見られます。

△本來は八月か九月頃播種すべきものである、其頃に播種したものは只今植替時期であります。

讀者の聲

皆樣の御感想でも御不平でも何んでも御投書を願ます次號から掲載いたします。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

社告

人事相談所

◉本所に婦人週報社の附屬事業として、世の煩悶に惱める男女に同情し、精神上、生活上、職業上其他有らゆる相談に應じ、無料にて最も善き解決を與へます。但し費用を要する御相談は實費を申受けます。

◉本所は絶對秘密の下に、結婚調査、人物調査、財産調査、男女學生品行調査、裁判上の証據調査の等の御依賴に應じ、親切と誠實を以て其任に當ります。但しこれには依賴者が至當と想はれる程の低廉な調査料を申受けます。

◉本所に御相談なされたい方は、書面にて申越されるか、若しくは直接面會に來て下さい。面會時間は日曜を除くの外、午後壹時より午後四時迄です。

顧問

衆議院議員 文學士 小山東助
辯護士 法學士 杉山賢三
法學士 高田愼吾
婦人週報主幹 小橋三四子

主任（前讀賣新聞身の上相談主任）松本雲舟

東京牛込區市ケ谷田町二丁目十七番地 婦人週報社内
人事相談所
電話番町五四六六番

御大典の盛儀と新式化粧

▲其の美くしさが幻に映じろ
　いとも氣高いお節の舞姫
▲姿もせめてアノやうにと
　思召す方はこの新式化粧

■雪をめぐらす舞の袖

其の床しい美しさよりも、モット氣高く神々しいのは今回の御大典にお節の舞姫に選ばれた方々の立舞ふ姿と其の容貌の美しさです。人間に生れて、殊には女に生れながら、この千歳一遇の御大典に咫尺しまつり、妙なる業を演じられるとは、何とした光榮でしやう、何とした果報のある方々でしやう、而し其れは其れ、是れは是れで、

■姿達平一般の婦人にも

其の光榮には預らない迄も、大日本帝國の一員として、今回の御大典に對し奉て又相當の覺悟と準備がなくてはなりません、否、場合に依ると、より以上の責任があるかも知れません。其れは、御大典の御場所たる京都大阪の婦人は申す迄も無く、我れ〳〵東京の婦人も地方一般の婦人にしましても、陛下が御出門の際又御還御の折柄日本臣民の本分として是非壯烈な爾滿な御見送りもしお迎へも致さればなりませぬが其の際婦人は婦人丈の覺悟と準備が必要でございます、其れは何でしやうか、申す迄もなく不敬に渉らない程度の上品で床しい

■女の身嗜のお化粧

を今から研究せねばならぬ事です、御承知の通り在來のお化粧は、往々野卑で、自然を缺いて居り、何となく態とらしくて厭味なり氣障である處から、學校等では白粉を全廢すると言ふやうな向もあるとか言ひますが、これは時勢を知らぬ咄して、却つて公けに對し不敬ではあるまいかと思ひます。其處で今回は斯う言ふ方々に對して

■一つ妙案をお教へ

しやうと思ひますが、其れは詰り新式化粧と申しまして、少しも野卑でなく、極く自然にスッキリと厭や味なく、全く生れつき色の白いやうな白さに塗くお化粧法で、皆様も既に御承知かと思ひますが、近頃高貴御料の白粉として非常に評判の高いも一つ判りよく申しますと、

■學者の創つた白粉

として有名な美顔白粉をお用ひになる事です。皆様の中には隨分從來白粉の爲めに失敗なすつた方もあり、お懲りになつた方もあると存じますが、それは白粉の選擇と言ふ事を誤られた結果で、今少し美顔白粉をお早くお召しになつて居れば決して今日の御後悔はなかつた事と思はれます。と斯う申上ると、

■隨分御大騒ね

それではどの点が他の白粉に優れて居るかと必ずお聞きになる事と存じますが、美顔白粉の効能は万人が万人、知らぬ人のない今日餘り改まつて申すのも異なものです、流石は學者が創つた丈に、

■被覆力と言つて

白粉には何よりも肝甚な効力が充分であり又白粉の分子が非常に細い上に、色が際立て白いので如何なる肌の方にもスル〳〵と氣持よくのび、塗けた處が如何にも自然で厭や味なく、氣障でなく何とも言へぬお人格を高めます、それでこそ恐れ多くも

■宮内省のお買上となり

お化粧品にかけては從來あらゆる贅澤を盡された、非常なお化粧通の一般貴婦人さへ近頃美顔白粉ばかりの愛用者になられたのを見ても判ります。それは妾が言ふのではなく一度お用ひになつた皆樣の一致した評判ですから、これで見ても万人向のする白粉である事が判ります、

■十一月十日午后三時三十分

神嚴な紫宸殿の御儀式に、總理大臣が國民を代表して萬歳を三唱せられる時、國民の赤誠を奉じるには、婦人は婦人丈に、眞面白粉の新しい神聖なお化粧で晴装なして、心から誠意を表されなければなりません、

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

◉御大典に必ず無くてならぬ記念品!!!

[redacted]臣民として此を床柱及び門口に裝飾する事を忘る可からず

高貴御用品

曠古の盛典たる御即位式は愈々近づきたるに　陛下の赤子たる我等が此の千載一遇の盛儀を漫然として打過すは誠に物足らぬ感あり。故に此の國民至誠の熱情を表彰し併せて子孫の末まで大正聖代の盛典を記念するに適當なる物を發見せんと苦心を重ね　學者に諮り國史に考へたる結果茲に天然生の『日陰蔓』に莊重なる古代式裝飾を加へたるものを有志者に頒布する事となせり。由來『日陰蔓』は我國太古の祭式より歴代の大嘗祭其他の國典に用ゐられたるものにて最も見事なる天然の緑色を帶び、之を各自の身體に着け又は室内に飾る時は惡氣を避け家内の清福を進むとの傳説あり殊に日數を經るも褪色の憂ひなければ蓋し絶對無比の好記念物たるを疑はず。大方の諸君希くは之を壯擧として奮つて快受せられ以て至誠の慶意を表し賜はん事を

日陰蔓を掛けたる圖

定價一掛　金七十錢　金五十錢　金三十錢　の三種（地方は送料金八錢）

（外ニ御注文次第特製輪飾リ金參圓以上金拾五圓迄）

御大典記念品　日陰蔓發賣所

東京小石川區白山前町四十七　大正商會　電話番町四九七四番

特賣店

日本橋區通り壹丁目　白木屋呉服店

神田區今川橋　松屋呉服店

◎箇數に限りあれば迅速御申込を乞ふ

祝婦人週報發刊

輸出向編物の内職あり

ドロンウオークの需に應ず

芝區三田四國町二番地

高畠すみ子

電話芝二七九七番

院長診察月、水、木

林、峰間兩副長は

麴町區三番町三十

電、番六二番

院長　醫學

電話ちがさき二番

相州茅ヶ崎海濱

河野、高橋兩副長

院長診察土曜日

祝婦人週報發刊

美術寫眞撮影

家庭出張撮影

京都染物

御誂御好に應

らしき品同樣

あらいはり、

右之通迅速を

可仕候間多少

に奉願上候

用を承り居候

東京市本郷區

井筒屋支店

御注文の節は御一

、金午前

目下當院に在勤

番地（市ヶ谷見附內）

東洋內科醫院

士 高田畊安

南湖院

（從停車場半里）

は目下當院に在勤

午後、入院診察後應需

齋藤寫眞館

下谷御徒町二ノ一六
電話下谷四五一二

じ御古物染直しにても御新
美麗にいたし候
しみぬき、ゆのし
旨さし精々入念廉價に調進
に拘らず御用向被仰付度偏
宮內省初め女子大學校の御

湯島新花町八番地（靈雲寺門前）
中村榮次郎
電話下谷五六七四
報被下候へば早速御伺可申候

御大典と額椽

◉十一月十日の御大典は全國民の謹て奉祝する所に御座候が、其の最も適當なる方法は家庭內に**御眞影を奉安**して家族一同敬祝の意を表するに有之候

影の尊嚴を冒瀆せざらん為めには、**額椽に就て細心の御注意**を御拂ひなさること必要と存候◉**弊店の額椽**は**品質**の堅固と色彩の高尚を旨とし額椽の彗星たる**舶來椽**と西歐の粹たる**新形**を百餘種不斷取揃へ有之候に付**寸法以外の寸法**にて出來合無之候に應じ可申候、**建築記念寫眞**及び御肖像書又は御注文に付節は速時御營業用廣告最も**迅速廉價入念**に御調製仕候又は多年の經驗により、も**迅速廉價入念**價との御賞讃を蒙り居候主意にして廉ざる**一層吟味**仕り確實廉價にて貴需に應じ良品にし反か樣可申候間何卒多少に係はらず**御用命**

仰付被下度候也

東京銀座通
尾張町

荒井眞畫堂

電話新橋二五〇一番
振替口座二五八四六番

御大典記念一割引

和洋服
羽毛皮
敷物窓掛 クリーニング（無水清淨）
染色
プレッシング（洋服皺伸シ）

各國大公使館御用
帝國ホテル御用

日比谷クリーニング商會

本店 東京日比谷公園停留場際（電新三一〇八番）

支店 東京赤坂區田町五ノ八
横濱市元町一丁目（谷戸坂）
大連市伊勢町十六（電話九五二番）

夏期出張所 信州舊輕井澤

御一報次第參上
御用相達可申候

會員募集

家庭文庫

家庭文庫は近代思想の結論と最新科學の恩澤に浴せんとする新時代に於ける理想的文庫である。而して其の内容は實用的知識と高尚なる趣味とを最も適俗的に論述したものであつて、我國に於ける最完全なる新しい事業である。

新婦人訓	日本女子大學校々長	成瀨仁藏
良妻賢母論	成女高等女學校長	宮田脩
家庭の娯樂	日本女子大學校教授	松浦政泰
童話の研究	東京高等師範學校教授	高木敏雄
家政講話	日本女子商業學校學監	嘉悦孝子
理想の住宅	建築技師工學士	保岡勝也
文藝講話	早稲田大學教授	島村瀧太郎
	同	紀淑雄
家庭博物	帝國大學教授理學博士	石川千代松
新美装法	化粧學大家	藤波芙蓉
家庭衞生	東京女子醫學專門學校長	吉岡彌生子
兒童の研究	女子高等師範學校教授	下田次郎
一家經濟法	帝國大學教授法學博士	和田垣謙三

內容見本無代進呈（往復ハガキにて御請求次第）

第一回刊行書　家庭の娯樂　本年拾月刊行

全部拾二冊完結毎月一冊發行
會費毎月金壹圓
入會金壹圓（但し最終會費內金）
製本　四六判總クロース金文字入金模樣色箔附天金仕立美本

發行所　婦人文庫刊行會
東京市牛込區神樂坂上株式會社南北社內
電話番町六〇三九番
振替東京六一一〇番

大正四年十一月四日第三種郵便物認可
大正四年十一月三日印刷納本

本紙定價　一部金四錢五厘（郵送料共）半年（廿六部）前金壹圓
▲三月廿
▲一

野口精子
歌集　夕ば

青空に黄金の柱わが
山の火は横になびき

歌集「夕ばえ」は千有余の作のであります。其數すべてしさと、美しさとあくまえの雲のかゞやきにも似た抑々何をか暗示し、如何なを娯しむ婦人の机上におす

東京

發兌

御大典紀念　特價販

故渡邊辰五郎先生遺著
新裁縫

特　本書は皇后陛下を始め奉りの光榮ある裁縫書なるが故に特賣するものにして今後再度

東京裁縫女學校長渡邊滋先生著
普通裁縫

特　裁縫書として最も廣く天下に書（黄表紙三冊物）の右に出づ版の上最も實際的に編著したに缺くべからざる良書なり

故渡邊辰五郎先生遺稿
家庭獨習　渡邊

特　家庭獨習用として最も叮寧親れば如何なる初心者にも容易伴侶たるは勿論師につき學此の光明に接せられよ

▲▲景品　特賣中右三書のに渡邊式雛形一
期限　自十月十五

發賣所
東京市
振替東

著
ん

表紙木版畫八度刷
挿畫四葉天金函入
定價金七十錢
郵稅金八錢

歌の宮居りつくし公孫樹のもみぢ
て霖す天女髪引く夕ばえの空

中より會心の歌を自撰せられたるも
六百首、裝幀は內容にふさはしき優
て清高に芳烈に、……げに夕ば
らむ この歌集は
る響きを傳へるでせうか、詩歌風流
ゝめいたします。

京橋區尾張町
警醒社
振替東京五五參番

賣
——景品付

教科書
價金壹圓七拾錢
各宮妃殿下の台覽を給はりし唯一無二
御大典に際し奉賀の意を表せんが爲に
特價販賣することとなし。
和裝全三冊
定價金[illegible]圓
郵稅拾貳錢

縫教科書
和裝全二冊
定價金壹圓
郵稅金八錢

價金八拾五錢
喧傳されたるは故渡邊先生の裁縫教科
るものなかるべし〆書は之れが增補改
るものなれば斯學に志す人は必ず座右

裁縫講義
價各冊金壹圓
切に而して詳細に挿圖を以て說明した
に了解し得べし、されば一般婦人の好
ぶ餘暇なき諸姉は速に一本を購求して
高等部
普通部
定價各金
壹圓廿五錢
郵稅各八錢

內何れか御求せらるゝも各書ごと
組(定價金拾五錢)宛を上す
日至十一月三十日

本橋區[illegible]町
三〇九〇番
榊原文盛堂

家庭週報

■家庭週報は四六四倍大八頁のもので毎週金曜日に發行致します。

■家庭週報の內容は主として日本女子大學校卒業生の研究。經驗及思索。文苑の發表機關にあて又廣く一般婦人の眞面目なる所信の發表機關にあてゝ居ります、尙婦人に關する諸先輩の意見を乞ふて掲載致します。

■家庭週報ハ抱負は廣く婦人の件侶となり、慰安となり指導となつて行くことを期して居ります。

■家庭週報は常に研究的態度を以て改善進步に務むることを忘れません。

■家庭週報は編輯は勿論事務、發送、廣告等總て女子の手に依つて經營せられて居ります、故に家庭週報そのものが既に女子研究の好材料と見らるゝことを覺悟して居ります。

▲定價一部(郵稅共)金三錢五厘
〇半ヶ年分前金八十五錢　一ヶ年分前金一圓六十錢

發行所
東京市小石川區
日本女子大學校內
櫻楓會
電話番町　二一六五　振替貯金口座東京　一〇三四〇

祝婦人週報創刊

シンガーミシン會社は這般御夫人御令孃方のミシン裁縫ミシン刺繡の御學習並びに御家庭用ミシン御購入の御便利を計る目的を以つて

芝區車町六十八番地(泉岳寺傍)に

芝シンガー裁縫院を設立致しましたから規則書及びミシン型錄は御希望の方に御通知次第無料進呈致します。出張教授にも應じます。

芝シンガー裁縫院

廣告料　一行金四拾錢　一段拾貳圓　一頁金六拾圓
前金五十四錢
二部)前金貳圓

婦人週報社
東京市牛込市谷田町二丁目十七番地
電話番町四五六六番
振替東京三一六六〇番

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA